



ぼくじょうにきてね
星川ひろ子・星川治雄/写真・文
ポプラ社 ¥1,200
まどかの家は牧場。乳牛を飼育しているので雄の子牛は売られます。かわいがっていたまどかは悲しみますが…。牧場の生活を通して命と向き合い成長する姿を捉えた写真絵本。



きょうはいい日だね
宮川ひろ/さく 藤田ひおこ/え
PHP研究所 ¥950
一年生のしゅうへいは学校に来ると声が出なくなります。自分も同じだったあい子先生は、「もうじき話せるから待っていて」とみんなにいます。思いやり、心があたたかくなる物語。



よこづなになったクリの木
稲本昭治/作 大社玲子/絵
文研出版 ¥1,200
学校帰りにヤスシは、友達とクリの実を落とそうとして、目にトゲが刺さってしまいます。それが原因でみんなが大好きなクリの木が切られてしまうことになり、責任を感じるヤスシはあることを思いひきます。



ブライディさんのシャベル
レスリー・コナー/文
メアリー・アゼリアン/絵
千葉茂樹/訳 BL出版 ¥1,300
19世紀半ば、たった一本のシャベルを持ち、新天地をめざしたブライディさん。シャベルは、彼女のたくましく豊かな人生を共に生きたのでした。素朴な木版画が味わい深い絵本。



おじいちゃんがおばけになったわけ
キム・フォックス・オーカソン/文
エヴァ・エリクソン/絵 菱木晃子/訳
あすなろ書房 ¥1,300
エリックの大好きなおじいちゃんが亡くなり、お葬式も済んだその夜、死んだはずのおじいちゃんがなぜエリックの部屋に来ました。自分でも理由がわからないのです。



山のごちそう どんぐりの木
ゆのきようこ/文 川上和生/絵
理論社 ¥1,400
どんぐりの木と動物や虫、植物、人との結びつきを、春夏秋冬をととして描いた絵本。自然はつながっていると気付かせてくれます。



マーシャと白い鳥
ミハイル・ブラトフ/再話
出久根育/文・絵
偕成社 ¥1,400
留守の間弟の世話を頼まれたのに友達の家へ遊びにいってしまい、弟を白い鳥に連れ去られてしまったマーシャ。しかし、その勇気と知恵で弟を取り戻すのでした…。ロシアの民話。



とんとんとサンフランシスコ
ドン・フリーマン/さく
やましたはるお/やく
BL出版 ¥1,400
サンフランシスコでネオンの文字に住み着いたハトのシッド。ミッジという伴侶と巣作りをして卵を暖めていたとき、事件が起こります。「くまのコールテンくん」でおなじみの著者の1958年コルドコット賞オナーブック。



ふしぎなお人形ミラベル
アストリッド・リンドグリーン/作
ピア・リンデンバウム/絵
武井典子/訳 偕成社 ¥1,200
二年前、わたしが留守番をしていたとき、ふしぎなおじいさんから小さな金色のたねをもらいます。ブリッター＝カイサとお人形ミラベルとのふしぎなお話。



どんなかんじかなあ
中山千夏/ぶん 和田誠/え
自由国民社 ¥1,500
目が見えなかったり、耳が聞こえなかったり、親がいなかったり…。「どんなかんじかなあ」と考えてみると、今まで気付かなかったことが見えてくる、自分の視野を広げてくれる絵本。